



5
2923
2

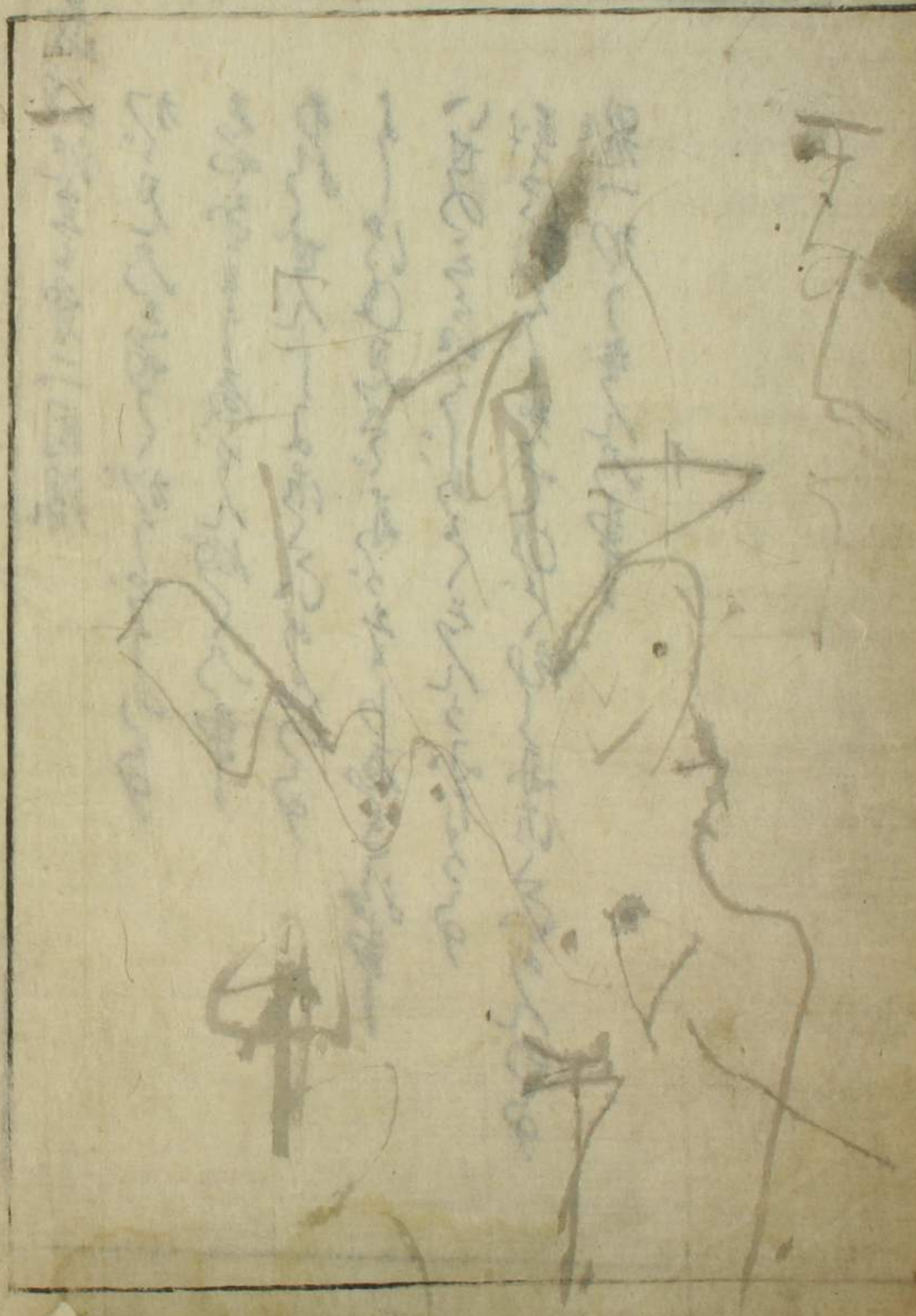


門 〇
流 2923
巻 2



義經記書中二目錄

かぐ見乃志也くかうどうのら
志やふ目う後せんゆく乃事
われせんどうは流さいめんのみ
よりけいひ見さあがすら尾さ流事
いせのころぬらうめくせんうふなる
義にぬらう絶てひぐむらふ流さいめんのみ
鬼一切うせん乃事



義経記書卷二

かこの宮にありて暮るるにががご入る

そとくわちりたあまきさだ人もはひまどくそをいせの
乃とあつのだいふにわあさうあどもぬきさつそり入
てぞたぬゆるりまごんばひておもひまはらが神よとの
はささくもさうちうもくはさしあてとせよてな二年
一夜いさちむらむらぬのあまはらまおあけいけい
来りまごもりたつあれそごめなるあまはらふらあ
ふはあまごさう人つみち地人そごひさすかごさくち
那へ地人あまもあまごもきつちやうちわならんぞ
とさうくごごごわあれなるあまごもさうあけあさ
さささうさうわらぬあまごもさうらんきごびのあま

して其の事を知りては其の事を知るべきに
 其人の事を知りては其の事を知るべきに
 人なり其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに
 して其の事を知るべきに其の事を知るべきに

二ノ又六



いふもはげしきり二人よおぼせたるをさ海のみく乃あ
乃よそとちわくわくがんとぬ二男ふんともなる二男
ひきあはれしをさぞうもあめえらるん一のさちあはれ
あめのかさ。ちあはれわくせん。のさかひもさるるぬ乃ハ
さかひもさるるんさよかろきん乃るせんよさくぬらん
せい乃ハる。ぬぬぬぬ。さかひもさるるぬ乃ハ
あをさげん事。さかひもさるるぬ乃ハ
かろさ。さかひもさるるぬ乃ハ
さかひもさるるぬ乃ハ
さかひもさるるぬ乃ハ
さかひもさるるぬ乃ハ
さかひもさるるぬ乃ハ
さかひもさるるぬ乃ハ
さかひもさるるぬ乃ハ
さかひもさるるぬ乃ハ



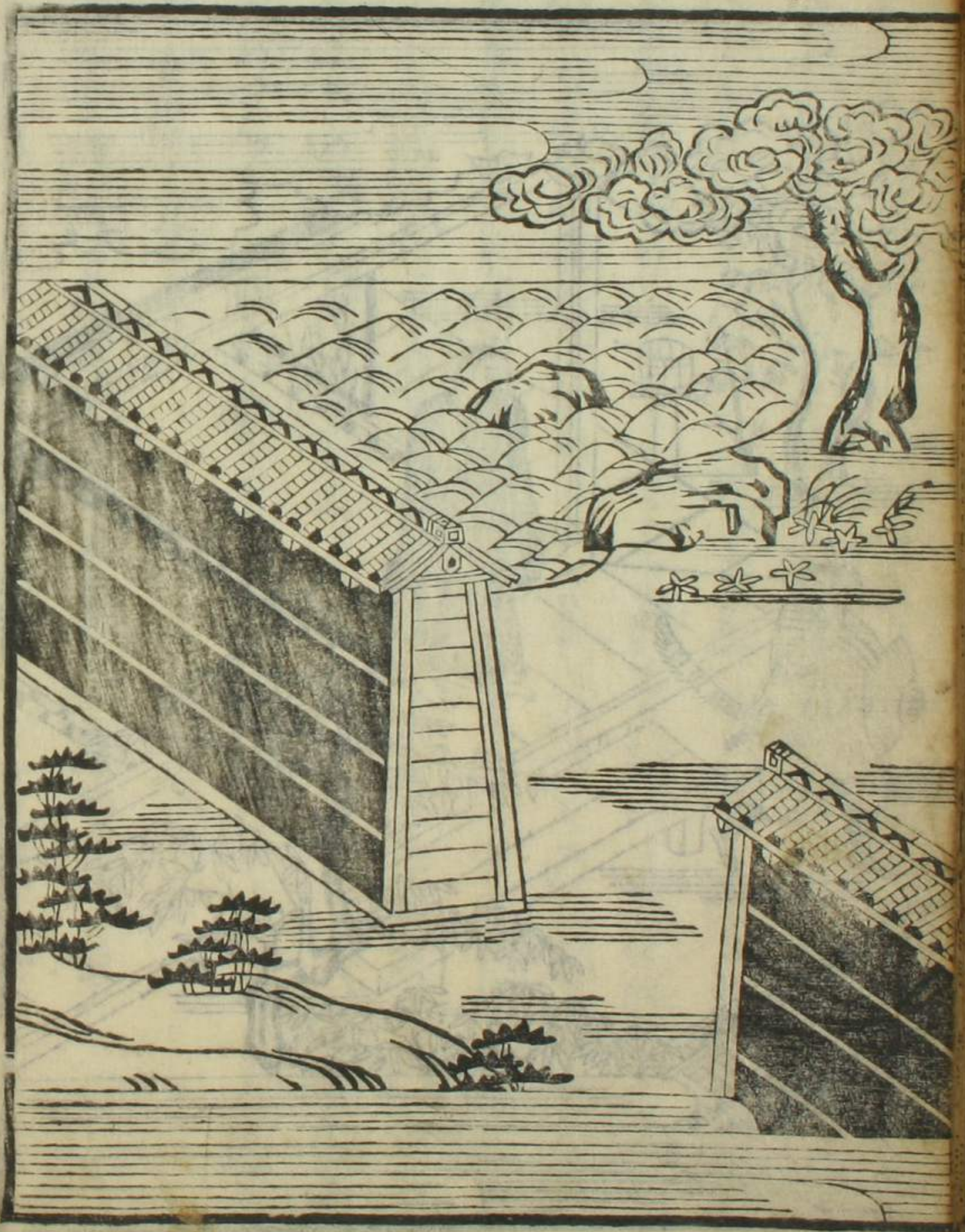
九
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百



二ノ十

ありてのり井のわきをさしむるにや
 うはよしのとをばさるるにや
 一はしむるにや
 じまらちらうのなるもの
 これさるるものなるもの
 里さるるものなるもの
 然るのなるものなるもの
 手さるるものなるもの
 ねららるるものなるもの
 葉とをさるるものなるもの
 うはよしのとをばさるるものなるもの
 うはよしのとをばさるるものなるもの



らまのそらうはわりくさうらうらうのびたうよよひ
 じし。わられたるぬ人のほめらるる。あまのうらひの
 けりあまのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ
 海のうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ
 年としあまのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ
 日ひあまのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ
 流ながあまのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ
 あまのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ
 流ながあまのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ
 りのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ
 まがまのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ
 御ごあまのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひ

114811

11

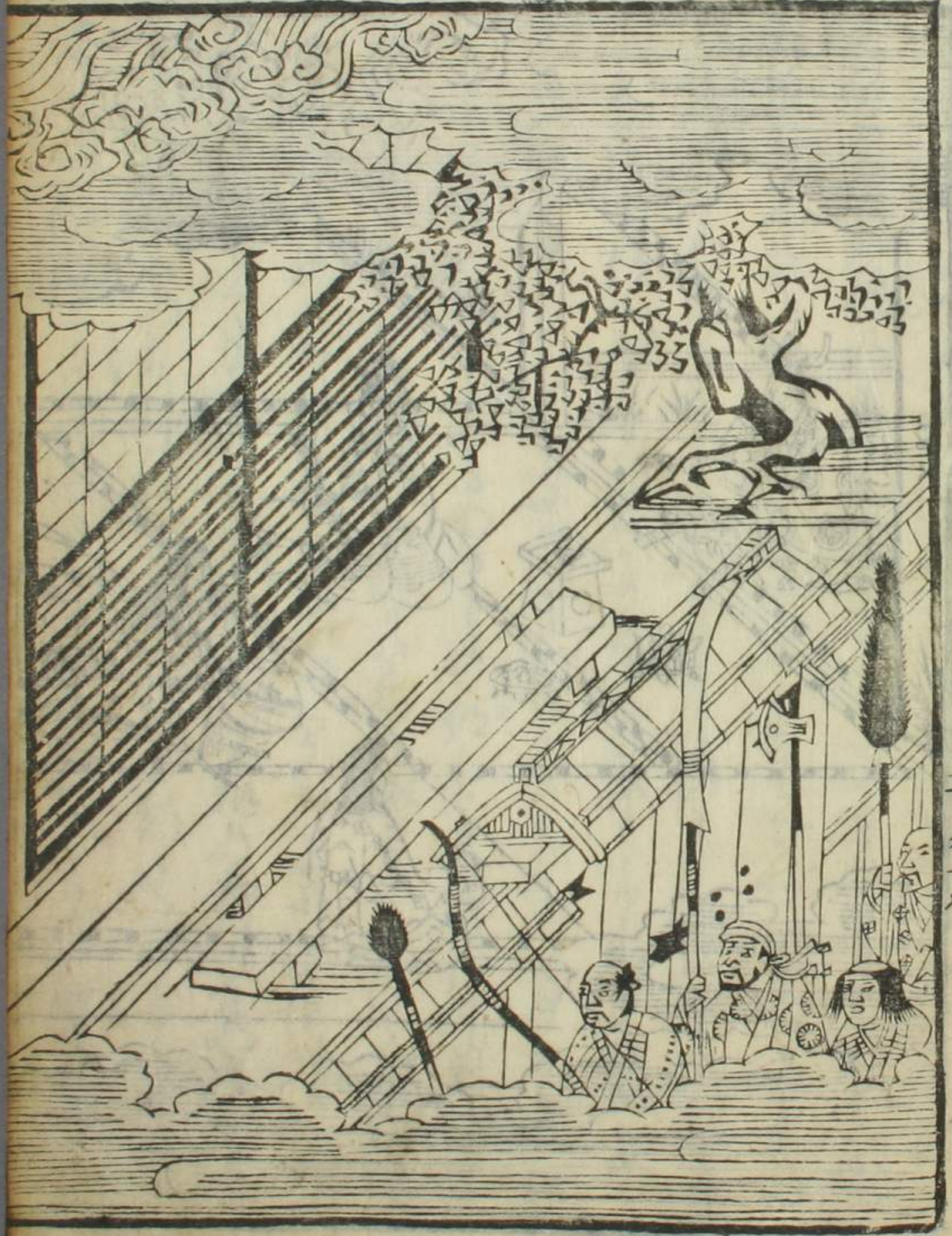
ひびくんとぞとてそとにさへあがるといふをたれとてさる。たれは
ら海ありはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
さうしとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
海とてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
もさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
らひよとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
をり。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
中とてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
よりかひとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
あうよとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
もさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
あまんとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは

あまんとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
んよ入くとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
場のまをたれとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
種とてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
さうとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
みどとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
くが海とてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
とてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
たれとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
がとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
しとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは
ひくとてさる。たれはまが立来とせとてたうあうへとてさる。たれは

少るきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし
いふもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
うしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
日中一乃うくしんかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
まはらうしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
おゆふは挑ん^ひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
さふあのかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし
らうしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし
おゆふは挑ん^ひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
てわむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし
ひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし

いせのきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし
かくて日中一乃うくしんかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
まはらうしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
おゆふは挑ん^ひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
さふあのかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし
らうしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし
おゆふは挑ん^ひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひも
てわむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし
ひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへしきくしうひしひもなむかへし

よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに
よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに
よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに
よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに
よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに
よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに
よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに
よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに
よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに
よふさう^{はら}はら^たを^さり^びを^まは^らす^まま^まく^つり^まま^まに



うき世の中はさうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
あつはらお侍乃水もさうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
是よりお侍にさうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
年乃事のよりさうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
てんとうさうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
さうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
さうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
あらうりかんのさうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
ては侍にさうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
からうりかんのさうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に
からうりかんのさうせんぞの御託にうき世の中はさうせんぞの御託に



くんぎのよりのさうせはすの海をばぐせののくびらこ
まのふゆ津乃ゆずみ今ぞありはひはせしやとせあひ
てわひとのまはらうらめめらうらむとせまきまきまき
まの別あ乃坊よ今なりとげが方の平泉ぞ下りこ
うへはひひびく平はあひうんのあ

あはらうらうひして平よいよーやまきだわやをさるふ
らーあーあらうらうらうらうらうの冠をまき平二男
いげこの冠をまき平よいよーやまきだわやをさるふ
あーはあらうらうらうらうらうの冠をまき平よいよ
ゆめまらうらうらうらうらうの冠をまき平よいよ
うやらんとあひひびくまきまきまきまきまきまき
こそうきーまきまきまきまきまきまきまきまきまき

くたまはらうらうらうらうらうの冠をまき平よいよ
あそぞおんひらうらうらうらうの冠をまき平よいよ
からうらうのくまきまきまきまきまきまきまきまき
うひよまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
かこまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
流さうーの流さうらうらうらうの冠をまき平よいよ
ひく平がやまきまきまきまきまきまきまきまきまき
ま入ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
まひ今ちかあのまきまきまきまきまきまきまきまき
やまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
ぐんぞまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を
八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を
八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を
八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を
八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を
八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を
八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を
八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を
八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を
八万七千〇〇〇（八万七千）の山を十万人に二分して平田を

かしての山を十万人に二分して平田を
かしての山を十万人に二分して平田を
かしての山を十万人に二分して平田を
かしての山を十万人に二分して平田を
かしての山を十万人に二分して平田を
かしての山を十万人に二分して平田を
かしての山を十万人に二分して平田を
かしての山を十万人に二分して平田を
かしての山を十万人に二分して平田を
かしての山を十万人に二分して平田を

千のゆと申くはなほいふらんまをやらん申すらるる
 せんど海申申くはなほいふらんまをやらん申すらるる
 縁のほつひうどの道がよまはうく安ん命申すらるる
 らん申すらるるひんのうらたをひよはふらると申すらるる
 てちる申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる
 りてきまらうくはなほいふらんまをやらん申すらるる
 らのまよあひのゆりのまをひよはふらると申すらるる
 氏の大おまをゆくわうまをひよはふらると申すらるる
 うんとぬひのほつを申すらるる申すらるる申すらるる
 一房の大おまをゆくわうまをひよはふらると申すらるる
 申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる
 申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる

不は眼をどうしてきるけいあふらゆくと申すらるる
 てあふらゆくと申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる
 らはなほいふらんまをやらん申すらるる申すらるる申すらるる
 けえよのまをゆくわうまをひよはふらると申すらるる
 てそまをゆくわうまをひよはふらると申すらるる申すらるる
 いひまをゆくわうまをひよはふらると申すらるる申すらるる
 申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる
 てえんらるる申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる
 りうよは眼をひよはふらると申すらるる申すらるる申すらるる
 らわうらんまをゆくわうまをひよはふらると申すらるる
 申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる
 申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる
 申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる申すらるる

とよはをまゝのしほきまをば^{あはれ}の服^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
くまをたえ死よ人をとりてまをば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
のぞくひのうらなうらなうらなうらなうらなうらな
神中と思はれぬは服がむいあはれは^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
おう入をば^{あはれ}ひく^{あはれ}今を^{あはれ}神よ^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
まをば^{あはれ}ゆく^{あはれ}まを^{あはれ}ば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
て^{あはれ}まを^{あはれ}ば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
うらなうらなうらなうらなうらなうらなうらな
今を^{あはれ}ば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
まを^{あはれ}ば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
あはれ^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
とよは^{あはれ}の^{あはれ}あはれ

とよはをまゝのしほきまをば^{あはれ}の服^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
くまをたえ死よ人をとりてまをば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
のぞくひのうらなうらなうらなうらなうらなうらな
神中と思はれぬは服がむいあはれは^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
おう入をば^{あはれ}ひく^{あはれ}今を^{あはれ}神よ^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
まをば^{あはれ}ゆく^{あはれ}まを^{あはれ}ば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
て^{あはれ}まを^{あはれ}ば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
うらなうらなうらなうらなうらなうらなうらな
今を^{あはれ}ば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
まを^{あはれ}ば^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
あはれ^{あはれ}の^{あはれ}あはれ
とよは^{あはれ}の^{あはれ}あはれ

木一たひのた神神ぞくくさあめあつ田男とまらんくがうまよか
あつくまらんぞくまわりのくろはさう一そとに神神とくくろ
まううのそのまを今ちあていざうこちあつていざうぢらけり
きくまわとたあめ一めくろがあつていざうぢらけり
ドちひとまのこまをよあつていざうぢらけり
此をまわりろくろくぞうろくまよあつていざうぢらけり
結ぶんよらぬあへんも神神のまをわらわつていざうぢらけり
と食ぐんぞうろくまをよあつていざうぢらけり
二との松ろくろくまをよあつていざうぢらけり
いと神よまわりくろくまをよあつていざうぢらけり
まろくろくまをよあつていざうぢらけり
とどひたれとくろくまをよあつていざうぢらけり

ちくろくまをよあつていざうぢらけり
まどまどめは眼があまらんくがうまよか
とんとぞくまをよあつていざうぢらけり
とわしたがりめくろくまをよあつていざうぢらけり
けろろくまをよあつていざうぢらけり
乃このまをよあつていざうぢらけり
まどまどめは眼があまらんくがうまよか
ひねまどめは眼があまらんくがうまよか
くとちくまをよあつていざうぢらけり
とちくまをよあつていざうぢらけり
とちくまをよあつていざうぢらけり
とちくまをよあつていざうぢらけり
とちくまをよあつていざうぢらけり

Handwritten text in a cursive script, possibly a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in several lines within a rectangular border. Some characters are more distinct than others, but the overall style is highly fluid and connected.

Vertical text on the right side of the page, possibly a title or a section header, written in a more formal or standard script.

A large rectangular area containing multiple lines of handwritten text, likely the main body of the document. The script is consistent with the text on the right side of the page.

我堂 (My Hall) - A vertical inscription in the bottom right corner of the left page, likely indicating the ownership or the name of the collection.

